

# 全国協議会 ニュース

2009年6月1日発行 第204号

発行所 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
〒160-0005 東京都新宿区愛住町23-1 Woody21-9階  
TEL.(03)3356-8217 FAX.(03)3356-8637  
発行責任者:中野勝博  
http://www.marrow.or.jp/  
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座 00150-4-15754  
銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

## 理事長に聞く

### ～新年度事業計画のポイント～

**Q** この一年の活動を振り返ると?

**A** 骨髄バンクを介した骨髄移植が1万例を超えまし

た。加盟団体と連携して全国で展開したありがとうイベントが各地での啓発活動に大きく貢献しました。また、骨髄採取適過キット不足問題では短期間で署名を集めることができましたが、これはボランティアだからこそ、素早い対応だったと思っています。

**Q** 一方で、将来検討会議の報告に基づいた造血細胞移植医療改革への取り組みや、事務局強化対策については不十分であったと反省しています。

**A** 今年度の運動スローガンは「患者と家族のために」

**Q** 「患者と家族のために」

**A** 私たちだから出来ること

「患者と家族のために」は全国協議会の根幹をなすコア事業であることから、安定的な運営のために、これまで以上に強化拡充を図ります。患者の経済的負担を軽減する働きかけにも積極的に取り組まなければなりません。ブロックセミナーでは、草の根的な患者支援の方法を導き出したいと思っています。

**Q** 新年度の事業計画のポイントは?

**A** 特に目新しいものはありませんが、やるべきことを確実に、確実に実施していきます。そのためには、ボランティアの強みを活かした活動に軸足を移していきたいと思っています。

**Q** 「造血細胞移植の欠品問題」という不測の事態が発生したため、財団が実行委員会に出席できなかったこともあって、合同での開催が危ぶまれましたが、関係各位のご協力により、120名の参加者を得て実施することができました。

**A** 当日は3団体から将来展望・次世代デザイン&将来構想・将来像検討というそれぞれの会議での報告に基づく発表の後、骨髄バンクでの導入も検討されている末梢血幹細胞移植について「非血縁者間末梢血幹細胞移植研究報告」と題して研究班の日野先生に分かりやすく解説をしていただき、協議会から末梢血幹細胞採取の現場を訪ねての報告がありました。

午後からは東京の会及び川氏、毎日新聞社の須藤氏を議長に、財団加藤俊一先生、NW神前先生、谷口先生、研究班日野先生、全国協議会陽田副会長をパネリストにお願いし「真の患者救命のために」これからの日本の造血細胞移植をテーマに活発なパネルディスカッションが行われました。

日本骨髄バンク第1例の骨髄移植(1993年1月)から15年、日本初の非血縁者間さい帯血移植(1997年2月)から11年を経た昨年12月初旬に、それぞれの実施数が1万例、5千例に1日違いで達しました。しかし、様々な要因で、望む治療を適切な時期に選択できない患者も多く発生しています。その解決方法の一つとして医療者から期待されている末梢

血幹細胞移植を非血縁者間に導入するには、全く違う説明で登録した骨髄ドナーの理解を得るために越えなくてはならないハードルがいくつもあると感じました。医療サイドだけに限ってもハード、ソフト両面で問題は少なくありません。しかし、患者の救命のために、ひとつひとつ解決していかなくてはならないのです。

いみじくも財団の加藤先生が発表された報告と全国協議会の将来像報告が、遠くない未来に日本赤十字社に「造血細胞バンク」として骨髄もさい帯血も、そして末梢血も統合されることが望ましいとの内容で一致しました。これからの造血細胞移植のあるべき方向性が垣間見えたフォーラムになりました。(菅)

## 千葉ロッテ西岡選手 ヒットを打てば寄付!

プロ野球・千葉ロッテマリーンズでも1、2を争う人気の西岡剛選手が、今シーズン中に打ったヒットの本数に応じて、当協議会の白血病患者支援基金にご寄付くださるとの、大変嬉しいお話をいただきました。

昨年7月に本拠地マリンスタージアムにおいて骨髄バンク支援ナイターが開催されたことは、本紙194号(2008年8月1日発行)でお伝えしたとおりです。

この時、白血病を克服した少年から両チーム監督への花束贈呈が行われました。その様子が印象的だったようで、今回の企画は西岡選手ご自身が発案されました。マスコミに向けた記者発表では「病氣と闘っている人のために何かできないかと考えていた。今年

は200安打を目標にしているので、200万円を寄付できるように頑張りたい。白血病と闘っている方々を勇気づけることができればうれしい。」とのコメントがありました。

パネルディスカッションでは、「東京の会通信」と骨髄バンク運動の言論の自由を考えると」とのテーマで、野村さんを司会に、パネリスト5名により行われました。

ジャーナリストの若林さんを除いた4名の方はいずれも骨髄バンク立ち上げから、運営に大きな功績のあった方々で、当時は振り返りながら骨髄バンクへの思いや支援を話され、今回の裁判についてもしっかりと応援すると、力強い言葉がありました。

## 「東京の会裁判を応援する集い」開かれる

全国協議会の加盟団体である「公的骨髄バンクを支援する東京の会」は、骨髄移植推進財団の前常務理事から、機関紙である「東京の会通信」の記事が名誉毀損にあたるとして訴訟を起こされています。

4月25日、「銀座3丁目会議室」において全国協議会の主催で行われた「東京の会裁判を応援する集い」には、雨と風が強く吹き荒れる悪天候の中でしたが、百名近くの方が熱心に参加されました。

主催者を代表して中野理事長から、「裁判で被告とされている東京の会にこれまでの経緯を詳細かつ客観的に報告してもらい、関係者が心を一つにして、全面的に応援することを目的にした集いである」との挨拶のあと、最初にこの裁判の弁護士である宮田信男先生から裁判の経緯及び現在の状況等について、また骨髄移植推進財団元職員の高橋裕一氏から関連裁判の状況報告がありました。

続いて、東京の会を代表して、野村正満氏からの説明と「この前代未聞の裁判を断固として戦うので、支援をよろしく」と決意表明がありました。

応援メッセージとして、初代の全国協議会運営委員長の宮戸征美さんから、設立当時に思いを馳せながら力強く暖かい言葉があり、骨髄バンクに対する熱い思いが伝わってきました。

## 財団、組織運営で前代未聞の汚点

「財団役員人事で協議会との間に大きな傷跡」

本紙前号(5月1日第203号)で報じたとおり、骨髄移植推進財団理事選任に関し、財団理事長からの依頼に基づき当協議会が推薦した理事候補者(協議会現副会長)の氏名を、財団幹部が独断で、決定機関である評議員会の議案に記載せず審議の場面に上程することなく闇に葬った事件に関し、協議会は財団理事長に質問書を提出し、この間の経緯等を明らかにするよう求めました。

4月22日、この質問書に対する財団理事長名による回答が送られてきました。回答は、3点の質問事項のうち2点については何ら答えず、さらに役員選任にかかる事項についても、ルールについては回答がなく、案の作成責任者が理事長であることを明らかにしているのみです。

協議会としては本紙前号で述べたとおり、財団はもはや全国協議会というボランティア組織の支援は必要としないと宣言したにも等しいのではないかと受け止めており、今後、財団との協力関係に影響は避けられず、骨髄バンク事業発足以来の両者の関係に財団自らが大きな傷跡を残す事態となっています。

全国協議会としては、財団と対立することは本意ではありません。しかし、今回の不正かつ恣意的とも受け取れる財団役員人事や「ありがとうキャンペーン」への対応など、最近の財団運営には問題があると認識しています。全国協議会は、患者救命を使命とする公益法人である財団運営が、公正かつ適切に行われるよう、財団ならびに監督官庁である厚生労働省に対して、強く求めていきます。



骨髄第21-95号 平成21年4月22日

財団法人骨髄移植推進財団 理事長 正岡 徹

2009年4月17日付貴協議会からの質問書に対する回答について

拝啓 陽春の候、貴職におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、2009年4月17日付貴協議会からの質問について、下記のとおり回答いたしますので、ご理解のほどお願い申し上げます。 敬具

記

質問1 当協議会からの推薦者を名簿に記載しなかった理由を教えてください。

回答 2月17日付で貴協議会から理事候補として推薦いただいた方について、当財団内部で検討した結果、多数の主だった役員から不適任という意見が出されました。理由は種々であり、申し上げられません。

質問2 理事・評議員などの事務局案を作成する時のルールと責任者を教えてください。

回答 事務局案の作成については理事長が責任を負います。当然のことながら、事務局案はそれぞれ評議員会・理事会で審議されて、議決されます。

質問3 評議員会の席上でもなご名簿に記載していないか質問があったと思われるが、その際に述べられた理由をお聞かせください。

回答 評議員会における理事選任の議案は非公開審議のため、開示できません。

# 植樹会特集

## 東京 初夏の陽気の中で 2カ所目の植樹

4月22日、港区白金台にある「東京大学医科学研究所付属病院」において、都内で2カ所目の記念植樹を行いました。

同病院は骨髄バンク設立当初から認定病院として骨髄採取・移植を手がけ、最近ではさい帯血移植で世界的にも抜群の成績を上げて有名になった病院です。元教授の浅野先生をはじめ、歴代の先生方も骨髄バンクやさい帯血バンクに大変ご協力をいただいております。多くの患者さんの命が救われた、まさに植樹にふさわしい場所です。



植樹の場所は、病院正面玄関の左手で、日当たりも良く患者さんも訪れやすい絶好の場所を提供いただきました。当日は汗ばむほどの陽気に恵まれ、用意されたフクロクジュ(福祿寿)

の苗木は、冷蔵されていたにもかかわらず芽吹きかけていました。植樹会には、同病棟の山下院長、森本副院長、血液内科の東條教授をはじめとする病院関係者、元患者と患者家族、ボランティアなど多くの関係者が集まりました。まず全国協議会を代表して、東京の会の顧問でもある野村副会長から趣旨説明が行われ、病院を代表して東條教授からご挨拶をいただいた後、病院関係者、骨髄バンクドナー、骨髄移植を受けた元患者さん、さい帯血移植を受けた元患者さんと家族の順で苗木に土を掛けました。

うれしかったのは、同病棟で骨髄移植を受けて退院間近の患者さんが、植樹のことを聞いて参加してくれたことです。感染防止のため、患者さん本人に代わって主治医の先生がスコップを手にとられました。

この桜の木が大きく育ち、闘病中の患者さんの心の慰めや励ましになってくれること、そして骨髄バンク・さい帯血バンクの意義を長く後世に伝えてくれることを心から祈っています。

昨年9月に「NPO法人骨髄バンクサポート新潟」としてスタートし、今年4月から本格的に活動を開始させた私たちに、これまで骨髄移植に関わって来られた全ての方々に感謝し、今後ますますの発展を祈念する今回のイベントは大変感慨深く、忘れられない一日となりました。

細くてまだ弱々しい若木の前で、新潟県知事や新潟県赤十字血液センター所長の祝辞が読み上げられ、ご出席下さった上越市長や中央病院診療部長より直接お言葉を頂き、骨髄提供者や

者、患者、ドナー、ボランティア等30名の方々に参加いただきました。それぞれの方から感動的なあいさつとコメントをいただきました。

桜は3本のしだれ桜。高さ5m程の成木で来年から見事な桜を咲かせることでしょう。パンダハウスはすべてボランティアで運営されている福島県立医大近くの宿泊施設です。患者さんやそのご家族が心いやされることを願っております。

報道も新聞3社、テレビ2社の取材があり大きく報道していただきました。

## 上越 若木に重ね合わせる 私たちの会の未来

4月23日「全国リレー記念植樹 新潟県植樹会」と称して記念式典が盛大に行われ、新潟県上越市にある県立中央病院の敷地に福祿寿の若木が、無事植樹されました。

晴天の4月30日、全国リレー記念植樹会を、新潟県新潟市

酒造会社が協力 八重桜3本を植樹

感謝と願いの植樹 日本最東端に到達

## 鉦路 鉦路市役所前庭にて

## 函館 函館空港西広場に 30本の桜並木を!

## 奈良 黄色いレシートで 商品をゲット

## 各地のたより 各地のたよりに 写真を添えて お寄せください。

# 心からのご寄付に 感謝申し上げます

4月21日～5月24日

株式会社コーポレーション	現金	10,000円
エグゼキューブ株	現金	350円
東京新都心ライオンズクラブ	現金	200,000円
大垣市役所有志	現金	4,550円
山梨県高等学校PTA連合会	現金	50,000円
阿部亜由美・優	現金	500,000円
須藤勝巳	現金	8,276円
山田康博	現金	9,880円
塩谷泰人	現金	1,000円
加島夕子	現金	1,000円
飯島孝枝	現金	2,240円
千葉洋和	現金	1,000円
匿名	現金	5,000円

### ●白血病患者支援基金

一休	現金	9,500円
(株)北越ケース	現金	15,424円
ブルドラゴン姫路店	現金	8,494円
足立眼科医院	現金	11,992円
市村歯科クリニック	現金	7,199円
こんクリニック松溝	現金	1,412円
匿名	現金	12,000円

### ●佐藤さち子患者支援基金

高橋清美	現金	3,000円
------	----	--------

(敬称略)

**活動資金の援助をお願いします**

銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655  
郵便振替口座  
00150-4-15754  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会



鉦路市役所前庭にて全国リレー記念植樹会を行いました。とても暖かい春の日差しが降り注ぐ中、鉦路市長はじめ関係者、市民の皆様にも集まって頂いた中で、植樹会となり、日差しばかりでなく気持ちも暖かくなる想いを共有することが出来ました。

函館の会では、5月9日記念植樹イベントを行いました。快晴に恵まれ、60名の参加者の中、記念セレモニーを行い、緑化推進への協力が認められ、函館市より感謝状を頂戴しました。

函館の会では、全国協議会の野村副会長、函館の会後藤副理事、長、函館市長、日赤函館センター所長、ライオンズクラブ各会長、元患者2人、最後に骨髄提供者2人がスコップでエゾヤマザクラの苗木に土をかけました。その後、野外でのジンギスカンパーティーで、懇親を深めました。

奈良 黄色いレシートで 商品をゲット

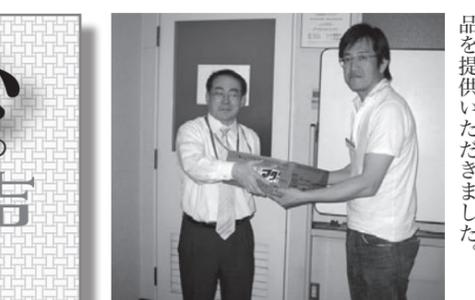
4月19日の日曜日、ジャスコ桜井店の黄色いレシートキャンペーンで商品がいただきました。おかげ様でお客様から入れて頂いたレシートで、5万円強の商品を提供いただきました。

鉦路市役所前庭にて全国リレー記念植樹会を行いました。とても暖かい春の日差しが降り注ぐ中、鉦路市長はじめ関係者、市民の皆様にも集まって頂いた中で、植樹会となり、日差しばかりでなく気持ちも暖かくなる想いを共有することが出来ました。

函館の会では、5月9日記念植樹イベントを行いました。快晴に恵まれ、60名の参加者の中、記念セレモニーを行い、緑化推進への協力が認められ、函館市より感謝状を頂戴しました。

函館の会では、全国協議会の野村副会長、函館の会後藤副理事、長、函館市長、日赤函館センター所長、ライオンズクラブ各会長、元患者2人、最後に骨髄提供者2人がスコップでエゾヤマザクラの苗木に土をかけました。その後、野外でのジンギスカンパーティーで、懇親を深めました。

函館の会では、5月9日記念植樹イベントを行いました。快晴に恵まれ、60名の参加者の中、記念セレモニーを行い、緑化推進への協力が認められ、函館市より感謝状を頂戴しました。



函館の会では、5月9日記念植樹イベントを行いました。快晴に恵まれ、60名の参加者の中、記念セレモニーを行い、緑化推進への協力が認められ、函館市より感謝状を頂戴しました。

函館の会では、5月9日記念植樹イベントを行いました。快晴に恵まれ、60名の参加者の中、記念セレモニーを行い、緑化推進への協力が認められ、函館市より感謝状を頂戴しました。

函館の会では、5月9日記念植樹イベントを行いました。快晴に恵まれ、60名の参加者の中、記念セレモニーを行い、緑化推進への協力が認められ、函館市より感謝状を頂戴しました。

函館の会では、5月9日記念植樹イベントを行いました。快晴に恵まれ、60名の参加者の中、記念セレモニーを行い、緑化推進への協力が認められ、函館市より感謝状を頂戴しました。

函館の会では、5月9日記念植樹イベントを行いました。快晴に恵まれ、60名の参加者の中、記念セレモニーを行い、緑化推進への協力が認められ、函館市より感謝状を頂戴しました。

函館の会では、5月9日記念植樹イベントを行いました。快晴に恵まれ、60名の参加者の中、記念セレモニーを行い、緑化推進への協力が認められ、函館市より感謝状を頂戴しました。



各地のたよりに 写真を添えて お寄せください。

# 心の声

私は白血病と診断されてから9年経ちます。診断は急性前骨髄性白血病で、当時30代半ばでした。診断2年後の治療中に医科大学に入学し、現在研修医1年目です。治療中もこれまで、自分の病気のことを話す相手はごく限られた人でした。

5年が経過し、いわゆる再発の可能性が低くなった頃から、ようやく自分のことを少しだけ話すようになりました。闘病記のように、同じ立場の人と話すことは全くなかったです。感情を共有することは慰めにはなりませんが、今後の行動を決めるにはあまり役に立ちません。事実を主治医から正しく聴き、事実から考えられる対処方法を決める。これほどほんとのこと

自分なりに、こういうタイプの人にはこういう話をして...と考えるが、日々研修を続けています。

自分なりに、こういうタイプの人にはこういう話をして...と考えるが、日々研修を続けています。